

平成 23 年度第 3 回中野駅周辺まちづくり推進会議 議事要旨

1. 開催概要

日時：平成 24 年 2 月 3 日（金） 午前 10 時～12 時

会場：中野区議会棟第 1 委員会室

出席：委員 32 名のうち 27 名（代理出席 1 名）

2. 質問・意見・事務局説明等

副座長コメント

- 駅南側の人々が四丁目の防災公園に避難するには中野通りを経由しなければならない。線路上空に人々が安全に移動できる空間を整備することを第一に考えるべきではないか。また、全体をコントロールするソフトな仕掛けと絶対に安全な防災センターを早急につくるべきである。
- Ver.3 は Ver.2 と同様に全体像を描くだけでなく、公民協働でまちづくりを進めるための実現可能なシナリオを提示すべきである。

座長コメント

- 全体としてはよくできているが、いろいろなことを入れ過ぎているので、皆さんの生命を守ることをもう少しクローズアップするべきではないか。

委員 1

- JR と話し合いをして決めていかなければならないことがたくさんあると感じている。駅ビルを望んでいる区民は多いように思う。もっと楽しめる場所、いろいろな買い物ができる場所、憩える場所を区民は求めていると思う。今後のためにも、もっと JR とのパイプをつくってもらいたい。
- 区) JR とは駅北口の改良など個別の調整・協議を進めている。今後は、第 2 期整備に向けて更なる接触を図っていきたいと考えている。
- 区) JR はこの会議には参加していないが、この場に JR に来てもらうことが、必ずしも議論を良い方向に導くとは考えていない。我々がこの場で個別具体的なことを要求しても良い返事はもらえないと思う。寧ろ JR がいない場で自由に議論しながら、どういう部分を引き出せるか戦略を持って検討することが大事だと思っている。
- これから先のことを考えると、税収の安定がとても大事だと感じている。税収が入らないと区政も区民も困る。一番大事なことは仕事ができ税金が払える大人をたくさんつくることである。まちづくりは人づくりが大切だと思う。教育に力を入れ、他人のことが考えられる人づくりをしてほしい。

委員 2

- 駅ビルの話は地元の商業者としては非常に関心が強い。当初は猛反対しようという機運が強かったが、民間の事業なので反対し切れるものではない。阻止はできないけれど情報はしっかりいただき、場合によっては区の商業者の意見も伝えていきたいと考えている。地元の意見も組み入れた計画になることを願っている。
- これから来街者がさらに増えると、地震だけでなくいろいろな面で危険なまちになると危惧している。防災に関する施策について、区役所、警察、消防と地元の商店街や諸団体による具体的な計画づくりのスタートを切りたいので、スピードを上げて取り組んでほしい。

委員 3

- 中野駅周辺が都市化していく中で、大事なのはタウンマネジメントである。区内の民間団体でも将来のまちはこれでいいのかという議論をしている。中野のまちをどのようにマネジメントするかという議論は、将来に渡って必要になってくると考えている。

委員 4

- 区役所が中野体育館の場所に移転した場合、駅から区役所までの距離は、今より遠くなるのか近くなるのか。視覚障害者などにとっては、なるべく駅に近いほうがいいと思っている。
- 区) 現在よりもやや北側に移転するため、駅からは徒歩5分程度になる。

委員 5

- 各地区の整備方針の構成では、駅地区が後ろの方にある。駅地区は非常に重要な意味を持つと考えているので、認識が違うのではないかと感じた。
- 区) 駅地区はまちづくりの要になってくるので、重要だと認識している。章立てや順番については、最終的な取りまとめの際に工夫していきたいと考えている。
- 駅ビルを建てると南北分断の象徴になる気がする。容積率は、二丁目地区やサンモール地区に移転してはどうか。
- 全体の構成案では、最初の方でハード・ソフト両面と言いながら、後半はハード中心になりソフトの部分が抜け落ちている。もう少し人間を重視した構成にしてもらいたい。
- 区) ソフトの取り組みについても、最終的な取りまとめの際にはさらに加えていきたいと考えている。また、わかりやすく馴染みがあり、人が主役だとわかるように工夫していきたいと考えている。

委員 6

- 二丁目と五丁目は木造の店舗が多い。地震で火災が発生し、燃え移るのが怖い。五丁目の飲食店街は中野の面白さでもあるが、もう少し火に強い建物に建替えてもらいたい。
- 二丁目の住宅供給公社の住宅用地はかなり広い用地なので、建物を高層化して、南口の防災広場を整備できるのではないかと。
- 区) 二丁目の住宅供給公社の用地を含めた一帯の再開発において、一定の広場空間を確保すると聞いているが、広域的な避難場所としてのスペースを確保するのは難しく、普段の生活の中にある憩いの空間として計画すると聞いている。

委員 7

- 価値軸に防災、環境、景観、ユニバーサルデザインと何でも入っているのが気になった。全て必要なことであるが、もう少し明確にしたほうがいい。
- 整備が進んでいく中で、次の世代に借金などのツケを回すことは良くないと思っているので、そういう点にも留意してもらいたい。また、区として環境やエネルギーの問題をどうしていくのか考えてもらいたい。
- 行政の方針なので、ハードの部分が多くなると理解しているが、すぐに整備が進むわけではなく、区民と相談して進めることや権利調整が必要なこともある。今後、どのような場面でどのように協力していくのか区民に理解してもらえら書きぶりにしたほうがいいと感じた。
- ハコモノ中心になっているのが残念である。中野はドライでなくウェットなまちづくりで、区民のための場所、永くいいまちになってほしい。もう少しウェット感が読み取れる内容にしてもらいたい。
- 区) コンクリートは人の暮らしや人のことを考えてつくっているもので、このまちづくりも人の要素で出来上がっている。それをまちづくりという方向にまとめていくときの言葉が、資料のような表現になっていると考えるともらいたい。

委員 8

- この地域を中野駅周辺という言葉でしか表せないのが、吉祥寺や下北沢のようにイメージが定まらないと思っている。例えば、情報発信の1つの方法として、駅周辺の地名を公募してはどうかと思う。
- 駅ビルによって、ワンストップで買い物ができるようになる状況は避けてほしい。回遊性の向上や地域活性化に資する駅ビルを誘導するという方針は最低限守ってほしい。
- 若者は安く場を提供すれば何かすると思うので、ハコモノを整備するだけでなく、若者を呼び込む仕掛けづくりができればいいと思う。

副座長コメント

- 中野は中央線沿線で唯一、駅前にとっても安全な場所ができた。これはアピールできる材料だと思う。これをより具体的なものにするためには、次に講じるべき手段とソフトな仕掛けが必要である。
- ビルの耐震性や安全性に気を使う企業は増えている。中野は新宿から近い位置だが、新宿や渋谷ほど高い地価でもない。専門学校や大学もあり若い人が多い。また、駅前には安全な空間がある。安い地価を求めている企業にはとても魅力的に見えるので、安全性をうまくPRに使えらると思う。
- 区) 中野駅周辺のまちづくりにおいては、当初から防災面を考慮した計画をつくるのが重要なコンセプトであった。現在、3.11を踏まえたよりシビアな被害想定で、区の防災対策をレベルアップするための様々な検討を行っている。中野区が一番心配なのは火事であり、広域避難場所は重要になる。広域避難場所である区役所一帯においては、安全性を強化することと、より利用しやすくすることを考えていかなければならない。
- 民間の立場から見ると、何となくこういったものがほしいと言われても困る。一緒にやらなければならないこと、是非やってほしいことなどが明確であれば、作業レベルではなるべく詰めておく必要がある。また、財政的なシナリオもしっかり伝えないと民間は動かないだろう。
- 人の要素は大事である。これから再開発に係わる人々が、どういうまちをつくれれば、どういう協力になるのか、それがわかるようなシナリオ展開にまとめていきたい。

座長コメント

- 価値軸をもう少しわかりやすくしたほうがいい。区民の皆さんに理解してもらうためにも大事だと思う。
- まちの耐久性を長くすることが一番のエコだと思っている。サンプルザや区役所は約50年で建替えの話が出ているが、仮に100年使える建物だった場合、そちらの方が大いにエコロジカルである。皆さんが100年使えるまちをつくれれば、それが一番エコロジカルだと思っている。そんなまちをイメージすべきであり、また、防災的にも優れ、みんなの頼りになるまちであるべきだと思う。
- 皆さんからのご意見の中で印象的だったのは人間という言葉である。計画論が先立つのは仕方ないが、Ver.2とVer.3の違いは何かと言われた場合、人間側に少し視点を移したと言えるといい。